

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻頭言

研究者に定年はない

名古屋大学名誉教授・中部大学特任教授 那須 民江



新年あけましておめでとうございます。今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年ですね。昨年10月に5年ぶりに値上げされた消費税の導入は「ものづくり」の世界にどのような影響を及ぼすのでしょうか。誰もが納得する税の値上げであって欲しいと思います。

さて、私は研究を開始してから半世紀を迎えようとしています。何故こんなに長く研究をつづけられたかを振り返ってみました。一つは研究を継続する「運」があったことです。今は亡き佐藤章夫先生との出会い、そこで「世界一の有機溶剤の研究室にする」という夢をかかれ、私も研究の魅力にうまく吸い寄せられました。当時は産業衛生学分野では新しい発想で、むしろ色目線で見られた有機溶剤の「代謝研究」は、今ではリスク評価に欠くことができない分野になってます。研究には「ストーリーがなくてはいけない」ということも教えて頂きました。私は「代謝と毒性」という幹を立てました。また、大阪大学に内地留学した時の佐藤了先生からは、「研究は流行を追う事ではなく、流行を作ることだ」とも教えられました。両佐藤先生は「自分の研究世界、オンリーワンの研究者を目指すこと」を教えてくれたのです。このダイゴミは素晴らしいですね。それがどんなに小さな研究でも、世界のたった一人の研究者になれるのですから。二つ目は仲間、つまり研究仲間や学会

仲間です。名古屋大学では多くの若い仲間が集まってきて、私の研究の幹に幅をもたせ、個性的な若い枝を茂らせてくれました。産業衛生学会東海地方会は会員間の繋がりが強い活発な地方会です。この地方会の活動に年齢を忘れて参加できました。三つ目は「物事にのめりこむ」私の性格です。「アコーディオン」、「編み物」、「邦楽」などにのめりこんだ時期もありましたが、今まで継続しているのは「研究」のみですので、これがやはり私に一番合った仕事と言えます。約半世紀経過した現在、幹は頑強で、枝は想像以上に茂り、若かりし頃の煌めく日々が詰まっていますが、まだ伸び代があります。学会では「定年制」が論じられていますが、研究には「定年」はありません。何故なら、「研究の契約」はどこも結んでいないからです。結んでいるとしたら、私の「満足感」にです。

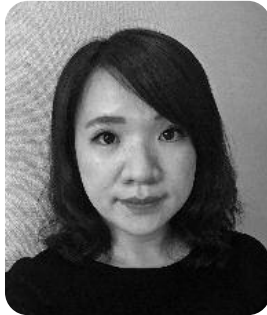
今年度も東海地方会の皆様のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。



特 集

シンポジウム 喫煙対策最前線に参加して

ブラザー工業健康管理センター 保健師 日笠 ちはる



2019年5月23日、三重大学の日笠先生と四日市看護医療大学の後藤先生の座長で、シンポジウム「喫煙対策最前線」が開催されました。喫煙対策研究の第一線でご活躍の産業医科大学大和浩先生から最新知見を講演

いただき、経営者の立場からアクロクエストテクノロジー(株)の齋藤隆太郎先生、産業医の立場からジヤトコ(株)の西賢一郎先生、保健師の立場から小職がシンポジストを務めさせていただきましたのでご報告させていただきます。

経営者の立場で齋藤先生のご発表では、社風を活かした取り組み事例を中心に、組織一丸となって行われている活動を知ることができました。産業医の立場で

西先生からのご発表では、非医療職が社員の健康を考え、長い時間をかけて風土を作り上げていく活動の報告と、それに対する医療職としての関わり方について学ぶことができました。保健師の立場で小職は、ボトムアップ式の受動喫煙対策、喫煙率の低下に注力した活動報告を行いました。最後に大和先生からは、改正健康増進法の解説、加熱式たばこについての最新情報をお話いただきました。質疑応答では、フロアから質問や意見が多くあり、大変有意義な時間となりました。

シンポジウムに参加して改めて感じたことは、企業における喫煙対策は多様であるということです。産業保健スタッフは、社会情勢や社内風土、経営層の理解等を考えながら、効果的・継続的な喫煙対策を目指して活動を継続していく必要があります。今回のシンポジウムでの学びを活かして、今後の産業保健活動につなげていきたいと感じました。



シンポジストの先生方



会場風景

学会シンポジウムの座長を務めて

医療法人濱碇会 みつわクリニック 院長 鈴木 伸 幸



第92回日本産業衛生学会のシンポジウム9、「発達障害の特徴と職場における対応」でアイシン・エイ・ダブリュ株式会社産業医の村崎元五先生と座長を務めさせて頂きました。シンポジスト

には精神科主治医の立場から名古屋大学の徳倉達也先生、産業医の立場から産業医大の永田昌子先生、保健師の立場から桃山学院教育大学の栗岡住子先生、就労支援の立場から東京障害者職業センター多摩支所の小野寺十二先生の4名の先生をお迎えしてシンポジウムを開催できました。

徳倉先生からはやや漠然とした発達障害の概念をクリアな形でご紹介頂きました。徳倉先生には私も名

古屋大学でお世話になったのですが、とても教育熱心で後輩医師からの信頼も厚い先生でしたので、今回も聴衆の皆様様に理解しやすい内容をご用意頂くことが出来ました。永田先生からは発達障害を有する労働者への対応と職場における合理的配慮について分かりやすくご解説頂きました。栗岡先生は産業保健師・公認心理士・教育大学の教員という多彩なご経歴をお持ちで、発達障害の特性を持つ方々と多く接してきたご経験を踏まえて職場での配慮や支援についてお話頂きました。小野寺先生からは公的機関として就労支援を行う仕組

み等、職域の手前における支援についてご紹介頂くことが出来ました。

金曜日朝一番のシンポジウムでしたが、センチュリーホール 1 階は立ち見が出るほど多くの方にお越し頂くことが出来ました。それだけお集まり頂いたことを有難く思うとともに、職域における発達障害に対する関心の高さに改めて驚かされました。こうした貴重な機会を与えてくださった大会長の斉藤先生、共同座長を務めてくださった村崎先生に感謝を申し上げて、シンポジウムの開催報告とさせていただきます。



座長



シンポジストの先生方

シンポジウム 11 外国人労働者への産業保健活動

東芝キャリア（株）統括産業医 秋山ひろみ



ヤマハ発動機 内野産業医とともに座長を務めさせていただきました。

現在(2018年10月)国内に約146万人の外国人労働者が就労しており、今後さらに増える見込みです。外国人労働者も労働安全衛生法に基づ

く産業保健の対象です。

シンポジウムでは、まず、監理団体 紀央事業協同組合 公磊氏が外国人技能実習生の定期健診結果や、通院疾病の分析、寮生活や安全教育、言葉の壁を埋める取組を紹介し、受け入れ先企業には愛をもって実習生に接してほしい。恩返しとしてよい働きをするからと話されました。

結核予防会結核研究所 高柳喜代子氏は、日本の結核治療の公費負担制度や技能実習生保険の加入など事業者には正しい知識をもって対応してほしい。国内で

発見・診断した結核は、国内で治療を完遂するのが大原則。未来に希望をもって来日した若者を病によって帰国させてはならないと話されました。

福岡労働衛生研究所 森朋子氏は嘱託産業医の立場でアルバイト留学生への対応経験から、健康診断結果を確認後に職場に配属してほしい。保健指導は日本語で行うので、やさしい日本語でのコミュニケーションができるように企業には日本語能力向上の支援をしてほしいと話されました。

トッパングループ健康保険組合 古賀東診療所 山川香奈子氏は産業看護職として、外国人実習生の実習期間だけでなく、母国に帰ってから家族・友人も含めて健康に生活してほしいと願い、毎月健康教育に取り組んでいることが紹介されました。

それぞれの現場で産業保健活動を模索していることを再確認し、本学会が外国人労働者に対しての産業保健のスタンダードや共有できるツールを発信していく必要があるという思いを強くしました。

職場におけるがん検診を考える

シャープ三重健康管理室 産業医 酒井秀精



表題のシンポジウムで、日本製鉄の宮本俊明先生とともに、座長を務めさせていただきました。

がんが日本人の日本人の死因第1位となつて久しくこれが続いています

が、がん検診の受診率は高くはありません。今後、定年延長、女性の社会進出などにより企業にとってがんによる人材喪失のリスクが増えることとなります。このため、厚生労働省はがん対策推進企業アクションなどで、がん検診受診率の向上を企業と連携して進めていこうとしています。ただ職場におけるがん検診は法的根拠がないなど種々の問題点があり、われわれ産業保健職がどのように関わっていけばよいか、などについて3人のシンポジストにご

発表いただきました。

東海大学の立道昌幸先生からは、職場におけるがん検診の特徴、任意型検診と shared decision making と題して、がん検診には利益、不利益があり、共有意思決定の機会と仕組みを職場で行っていく必要性をお話しいただきました。パナソニックの伊藤正人先生からは、職場がん検診の内容、現状、課題、これからの課題について専属産業医の立場からお話しいただきました。京都工場保健会の長谷川暢子先生からは企業外労働衛生機関の立場から、婦人科検診の現状、課題、展望についてお話しいただきました。

ご発表後は、会場からもがん検診のすすめ方、費用の問題、保険者による格差、などいろいろな問題について活発に討論がなされました。これからも、職場におけるがん検診のすすめ方をさらに議論していく必要があると思われました。

パネルディスカッション：「メンタル不調者に対する就業判定の考え方と実際：事例を中心に」を開催して

ゆういあいクリニック、トヨタ自動車(株)本社産業医 浦上年彦



最近、職場環境、働き方そして労働者自身の取り巻く環境の変化や影響もありメンタル不調を訴える労働者が増加し、その訴えや要因も多岐にわたっています。

産業医は、このようなメンタル不調者に対し就

業可否判断をしなくてはなりません。就業の継続か、就業配慮が必要か、休養を指示すべきか、また復職可否を安全配慮義務の観点から判断を求められます。現実には対応に苦慮している産業医は多く、中には現場の意見も聞かず主治医の意見をそのまま受け入れてしまう産業医も散見されます。しかし、対応を誤ると本人のみならず、現場が疲弊してしまい、新たにメンタル不調者を出してしまう恐れがあります。このような事例においては産業医のみならず現場や人事、保健スタッフ、主治医、家族の連携が重要で、場合によっては法律関係者の

協力が必要になってきます。

そこで各企業が行っている現場での具体的な対応を提示、討論してもらう目的でこのパネルディスカッションを企画しました。

このパネルディスカッションでは対応に苦慮するメンタル不調者の事例(双極性障害、パーソナリティ障害、発達障害等)を提示し、その対策、就業の可否判断について、デンソー執行職、総括産業医：下方敬子、味の素統括産業医：阿久津昌久、仁大病院理事長、愛知県精神科病院協会長：舟橋利彦および弁護士で医師の田邊昇の各先生方を迎え、それぞれの立場から安全配慮義務の観点からも討論してもらいました。下方先生は双極性障害事例を、阿久津先生はパーソナリティ障害事例を、そして私は発達障害事例等を提示。それぞれの症例に対し産業医、企業側から問題点および対応を、舟橋先生には疾患の特徴、精神科医としてのアドバイスを、そして田邊先生からは法律の面から対応に対する注意点を具体的に提示していただき活発な討論ができたと思っています。パネリストの先生方からも非常

に面白くディスカッションができたと言っていただけ、また会場も立ち見が出るほどの盛況で参加された方からも具体的で有意義だったというご意見が多くありました。

今回のディスカッションが産業保健にかかわる方々の一助になれば幸いです。



会場風景

パネルディスカッション 「ISO45001 と産業保健のレベルアップ」開催報告

土屋眞知子コンサルタントオフィス 代表 土屋 眞知子



今年 5 月名古屋国際会議場にて、第 92 回日本産業衛生学会が開催されました。来場者数は約 4800 名に上り過去最高の記録となったようです。さて、開催 3 日目の 5 月 23 日に産業衛生技術部会研修会として表記の

パネルディスカッションが開催されました。2018 年 3 月 ISO45001 が本格的に労働安全衛生の国際規格として稼働することとなったことを受け、今後の産業保健のレベルアップを図ることを目的に、規格利用による企業の労働安全衛生活動のあり方や OHSMS の活動の方向性についてそれぞれの専門家の方から話題提供をして頂きました。

パネリストには、ISO/TC283 日本代表エキスパートとしてご活躍の中央労働災害防止協会の斎藤信吾先生、世界的な企業活動を展開されている HOYA 株式会社から HOYA グループ総括産業医の小林祐一先生、ISO/TC283 国内審査委員会委員を務められた五十石技術士事務所の五十石清先生、そしてインドから駆け

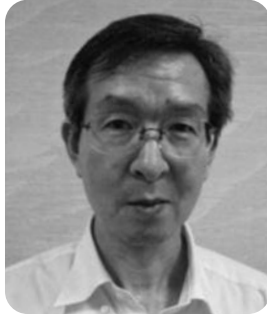
つけて下さった ILO 南アジアディーセントワークチームの川上剛先生の 4 人の著名な先生方にご登壇頂きました。話題提供の要旨を以下に記載します。

- ① ISO45001 と既存の基準・規格に大きな差異はないこと。
- ② 特徴的な点として、worker (働く人) の定義は組織で働くすべての人のこといい経営層等も入ること。
- ③ 「リスク」には従来の労働安全衛生のリスクに加えて、経営上 (システム上) のリスクがあること。
- ④ ISO45001 の仕組みは組織のグローバル管理運営の基軸として活用できること。
- ⑤ 規格作成の目的は「認証」を意図したものでなく、システムを体系的に改善するために全体または部分的に用いることができること。
- ⑥ 労使参加型のマネジメントシステムの構築は重要であり、労使対話・労使協調は効果的な産業安全保健活動の好循環を生むこと。

座長は中部大学の城憲秀教授と土屋が務めました。お陰様で満席に近く多くの方々にご参加頂きました。ご協力頂きました諸先生方に深く感謝するとともに、この企画が今後の産業保健活動の更なる向上に寄与できることを願っています。

失敗事例から学ぶ産業保健活動に参加して

まつだクリニック 院長 松田 元



このパネルは、「大家やベテランも様々な失敗を糧に成長した。若手諸氏も失敗を恐れず挑戦し成長してほしい」という趣旨の企画です。座長は発案者の石川浩二先生と加藤隆康先生。障りの多い内容を如何に提示するか

悩ましく、各演者とも一度は断ったとか。

大家でもない筆者は、それなり長い経験と、企業や肩書を背負わず気楽に失敗を語れるがゆえ列に加えていただいた次第。安全配慮と守秘義務の葛藤、建前通りに就業措置や医療措置を進めた結果が暗転、力不足で良い結果得られず、安全衛生組織の中で良い関係性築けず、等、出せる範囲でひたすら具体的失敗事例と考察を提示いたしました。

高崎正子先生は「産業保健チームのセンターに医師免許不要論」の生ける証拠のような保健師さん。初期こそ結果だけを叱る「なんで出来ないの」的保健指導で失敗したが、企業に溶け込み、従業員や職場を理解するにつれ、大きな成果をあげて行かれました。その間には、切腹覚悟のような、事業所トップに職場改善を直訴した失敗？もあつたと披露されました。(それ失敗?) そんな高崎先生も会社生活終盤を迎えているのだとか。

森崎美奈子先生は、産業心理職としてメンタルヘルス活動のシステム構築に尽力されました。その過程で

産業保健チームとして経験した失敗を糧に、管理職や人事の重要性を理解し連携、産業現場に臨床的視点で向き合わず労務管理の一環としてメンタルヘルス活動を推進する、等の活動を確立、実践されました。活動中の重要事例も提示いただきました。

小林章夫先生は、産業保健の研究者、大学の組織人として、順風満帆でなく寄り道や遠回りだらけで過ごした 40 年余そのものを失敗経験とし、大海原の航海と漂流に模して語られました。寺尾聡の名曲「出航 SASURAI」を思い起こしました。大学航路の次の航路は？「伏見・長東伝クリニック」も何となくマルコポーロを想起させられますね。

各先生の第 2 航路も要注目ですが、それより何より、若手諸氏は、サポートの手厚い海域、「東海地方海」へいざ「出航」を。



座長：石川先生、加藤先生

働く人の口腔がんと生活習慣－その予防と早期発見にむけて－ 抄録より

めぐみ歯科 間瀬 純治

働く人のがんの中でも特に社会性を著しく損なう口腔がんを取り上げました。今後、予防、早期発見と治療後の支援といった多段階に対応できるシステムの構築が期待されます。以下、抄録から内容を抜粋致します。

本邦で口腔がんの罹患率 (C00-06) は 11 番目に多く、罹患率 (年齢調整) は男性 6.1/10 万人、女性 2.4/10 万人で、死亡率 (年齢調整) は男性 3.3/10 万人、女性 1.2/10 万人と報告されています。男女のピークは 60 歳代、70 歳代です。口腔がんは前がん病変から長期経過を経てがん化することが知られています。

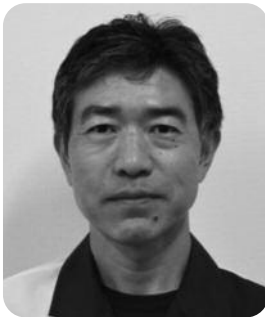
代表的な前がん病変の口腔白板症の年齢調整罹患率は 409 人/10 万人で、男性が女性の約 5 倍と報告されています。口腔がんの危険因子は、喫煙、過度の飲酒、慢性の機械的・化学的刺激、ウイルス感染などが挙げられ、中でも無煙タバコ (噛みタバコ)、有煙タバコの使用頻度と高い相関があり、その科学的証拠はエビデンスレベル Group I と十分な因果関係が明らかになっています。喫煙と口腔がん死亡についての相対リスクは、男性で 2.7 倍、人口寄与危険割合は 52%と、5 番目に多いとされています。一方、カンジダ感染などによ

る口腔粘膜の慢性炎症、不良補綴物の刺激による発がんも指摘されています。口腔がんは直視可能にもかかわらず約半数の患者が進行がんの状態を受診していることは世界共通の問題です。一方、口腔がんは治療後に咀嚼、嚥下、発音機能に影響を来し、社会復帰率が低

いことやキャンサーサバイバーの自殺率が高いことが問題であり、積極的な支援体制作りが必要です。現在、早期発見に向けた口腔がん検診の活用、診断精度向上の方策、口腔がん予防のためのガイドライン策定が期待されています。

教育講演「最新の概日周期と睡眠制御研究と、その産業衛生への応用」を聴講して

スズキ株式会社 相良工場医務室 産業医 新島邦行



第92回日本産業衛生学会にて、名古屋市立大学大学院薬学研究科教授 桑和彦先生にご講演いただきました。桑先生は、2017年のノーベル医学生理学賞受賞者であるジェフ・ホール、マイケル・ロスバッシュ、マイケル・ヤング3名の概日リズム研究の流れを受けて、1999年にCell誌に哺乳類の体内時計の完成形を発表されました。先生方の研究によって、体内時計は時計遺伝子の働きで調節される蛋白質の合成と分解によって作られる細胞レベルの現象であることが明らかにされました。中枢時計とされる視交叉上核は、それを構成する一つ一つの細胞に時計があり、それが視交叉上核の時計を形成します。時計は全身の細胞にも存在しており、それが各臓器の時計(末梢時計)を作ります。中

枢時計は光の刺激を受けて自然界の昼と夜に振動を合わせながら、末梢時計にも作用して全身のリズムを整えることで体の機能を良好に維持します。一方、眠気を生じる機序については、この概日周期による覚醒シグナルと恒常性維持機構(覚醒中に蓄積する睡眠負債)の二つの制御系が関わる2過程モデルで説明されてきましたが、最近の分子生物学的研究によって覚醒時はグルタミン酸シナプスを介した細胞内カルシウムイオン濃度の上昇とシナプス蛋白質のリン酸化を生じ、睡眠中は逆に細胞内カルシウムイオンの減少と脱リン酸化といった覚醒時の細胞内変化を元に戻すような働きがあることがわかり、これが睡眠覚醒リズムに関与している可能性があるそうです。地球上の生物が生存のために獲得した能力ともいえる概日リズムと睡眠の機構が明らかにされつつあることに感動を覚えるとともに、桑先生の学問・研究に真摯に向き合われるお人柄に感銘を受けたご講演でした。

枢時計は光の刺激を受けて自然界の昼と夜に振動を合わせながら、末梢時計にも作用して全身のリズムを整えることで体の機能を良好に維持します。一方、眠気を生じる機序については、この概日周期による覚醒シグナルと恒常性維持機構(覚醒中に蓄積する睡眠負債)の二つの制御系が関わる2過程モデルで説明されてきましたが、最近の分子生物学的研究によって覚醒時はグルタミン酸シナプスを介した細胞内カルシウムイオン濃度の上昇とシナプス蛋白質のリン酸化を生じ、睡眠中は逆に細胞内カルシウムイオンの減少と脱リン酸化といった覚醒時の細胞内変化を元に戻すような働きがあることがわかり、これが睡眠覚醒リズムに関与している可能性があるそうです。地球上の生物が生存のために獲得した能力ともいえる概日リズムと睡眠の機構が明らかにされつつあることに感動を覚えるとともに、桑先生の学問・研究に真摯に向き合われるお人柄に感銘を受けたご講演でした。

産業保健看護活動におけるリーダーシップを考える

岐阜県立看護大学成熟期看護学領域 教授 梅津美香



第92回日本産業衛生学会の最終日、最後の時間帯に「産業看護フォーラム：産業保健看護活動におけるリーダーシップのあり方」が開催されました。

テーマは、産業看護職は一人職場から複数職場まで、様々な環境で働いている中で、社会からの要請の

拡大や実践現場ニーズの多様化・複雑化が進んでいるという現状から、これまで以上にリーダーシップの発揮が重要ではないかと考え、設定したものです。私は、座長および演者の一人として、開催に関わりました。

本学会理事長である川上憲人先生の基調講演では、リーダーシップとは「ビジョンを持ち、これを実現すること」であり、産業保健に携わるそれぞれの立場からリーダーシップを考える必要があること、リーダーシップを発揮する方法についてわかりやすく有益なお話がありました。私は演者の一人として大学関係者の立場

から看護基礎教育や継続教育の中でリーダーシップ育成がどのように取り扱われているか、概略をご紹介させていただきました。中野先生は複数スタッフのいる事業場の立場から、「共有リーダーシップ」の概念に基づく組織改革について、塚田先生は一人事業場の立場から、自らリーダーシップを発揮し、体制づくりを実施した取り組みについてご紹介くださいました。最後に、当学会の産業看護部会長の五十嵐先生から、産業保健チームとして一人一人がリーダーシップを発揮するこ

とが求められているとの指定発言をいただきました。いずれも自らのご経験を踏まえてのもので具体的な示唆に富むものでした。

フロアからは、積極的に発言があり、活発なディスカッションになったと思います。参加者の皆様とともに私自身も実践を振り返り、リーダーシップについて具体的に考える良い機会になりました。当日の会場はほぼ満席で、多くの方にご参加いただくことができました。あらためてお礼申し上げます。



会場風景



座長

第 92 回日本産業衛生学会に参加して

三菱重工業（株） 人事労政部 健康管理グループ 大江西健康管理チーム 保健師 植野 千鶴子



名古屋国際会議場において開催されました日本産業衛生学会に、初めて実行委員という立場で参加いたしました。また、産業保健師 11 年目にして、今まで日々の業務や育児に追われている、という言い訳でしてこなかったポスター発表にも挑戦しました。さらに、運営委員長である斎藤先生が新しい試みをとということで、「実行委員の保健師にも座長を！」ということになり、初めての座長を拝命しました。（正直、聞いたときは「え〜」と声がでてしまいましたが）

初めての事づくしで最初はどうなることかと心配でしたが、そんな心配も束の間。学会初日に実行委員として最初の仕事が抄録担当、これが想像以上に労力を要しました。5000 人弱の参加者全ての抄録を袋に詰めるといふ地道でエンドレスな作業。同じ担当の産業医の先生方と、抄録を詰めるにあたって適切な作業姿勢

等をあれこれ考え、汗をかき進める中、裏方の大変さを目の当たりにして自身の心配や不安は消えてしまいました。また、他の実行委員の方が、様々なレイヤードされた役割を軽やかにこなしていく姿を近くで見させていただきました。今までは学会に参加するだけで、改めて多くの準備があつての本番。という大事な勉強をさせて頂けたと思っています。またこのことは、産業の現場でも同じことが起こっていて、多くの労力が費やされた結果製品が造られており、その従業員の健康の手助けをさせてもらっている。そう思うと、まさに学会のメインテーマである「現場への貢献」、産業保健師として身が引き締まる思いも同時に感じました。加えて、座長・ポスター発表、準備にはそれなりの時間は費やすこととなりますが、今までにない勉強になりました。経験不足からわからないことも多くありましたが、周りのスタッフや先生方にご指導いただくことができ、終わってみれば全て挑戦してみてよかったと心から思えました。このような機会を頂けたことに感謝し、今後も叱咤激励いただきながら挑戦の心を忘れず産業看護活動に励んでいきたいと思っています。

第 92 回日本産業衛生学会でポスター発表をして

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 保健師 西島千晴



この度の学会では、はじめてポスター発表をさせていただきます。

研究に取り組んだのは、日常の業務で特定保健指導を行う中、減量に成功する人とならない人がいることから、体重変化と心理・社会面との関連

の有無を知りたいと思ったことがきっかけでした。そのために研究手法を基本から学ぼうと考え、大学院で勉強をしました。

大学院での学びは容易ではなく、リサーチクエスチョンをアカデミックな視点で研究の形に落とし込むことの難しさを痛感しました。先行研究をたくさん読むよう指導を受けましたが、最初は内容も理解できず論文を読むだけでも大変でした。それでも、辛抱強くご指導くださった先生方や、協力してくれた社員の皆様のおかげで、業務内での疑問に研究という形で取り組むことができました。今回はその学びを発表させていた

だけの機会となり、当日の質疑応答でさらに学びを深めることもできました。今後も日頃の保健活動を研究という形で掘り下げ、現場に役立つエビデンスの蓄積に貢献できたらと思います。

また、今回はじめてポスター発表の座長を務めさせていただきます。演題は 10 題、演者に十分に研究成果を報告して頂きたいと考え、事前に何度も抄録を読んで臨みました。役目を十分に果たせていたかはわかりませんが、とても貴重な経験をさせていただくことができました。

2015 年から始まった産業保健看護専門家制度では、学会発表をすることが必須項目となっています。東海地方会では、研究手法を学んで自社の従業員の健康度の向上や、業務改善に役立てたい学会員に対して、学術研究推進委員会が統計解析方法・発表のまとめ方などの支援をさせていただきます。私は研究に取り組むことで、研究手法を学べただけでなく、人間関係が広がり、自分にとって大きなプラスになりました。その経験から、ぜひ多くの人にもこうした機会にチャレンジして頂きたいと思いました。

第 92 回日本産業衛生学会 看護ボランティアに参加して

三菱重工サーマルシステムズ株式会社 安全保安グループ 健康管理チーム 保健師 中村明美



私が産業衛生学会員になって 20 年以上になります。これまでの学会では、シンポジウムや講演等の聴講、またポスターの発表者として参加してきました。2017 年の産業カウンセラー協会の全国大会にて「救護班のボ

ランティア]を担当し、運営・実行委員の方々のご苦勞や大変さとともにいつもの学会参加と異なる達成感を感じました。そのような経験から、名古屋で開催される第 92 回日本産業衛生学会では、お手伝いできることがあるのでは、と思っていたところ運営スタッフボランティアの募集を知り、応募いたしました。

私は、今回 5 月 23 日 (木) の日本医師会認定産業医研修会、セッション開始前後の受講証明の押印を担当させていただきます。初めてのため要領も得ておら

ず不安な部分もありましたが、他の 2 名の方と協力して、用紙を提出される先生方へのスムーズな対応を心がけました。また、「セッション前後の押印だけのボランティア]ですが、会場に参加される方々は運営委員の一人としてみておられます。押印担当の私たちに「席を離れ、戻ったら荷物がない！」と来られた突然のハプニングに戸惑いましたが、会場の運営委員の対応により無事に解決し、事なきを得ました。

委員の皆様のご尽力の成果もあり、担当させていただいたセッションは、会場に入りきれない多くの参加者であふれ大盛況でしたが、一部の方が講演を聞けない状況になり少し心残りでした。

ボランティアの内容としては小さなことでしたが、中部地区の産業医はじめ保健師・看護師、他の医療職の皆さんと運営を共にし、従来通りの学会参加では得られない充実感につながる第 92 回日本産業衛生学会となりました。

会 員 の 声

産業医活動の近況報告

(株) マキタ 人事部安全衛生課 産業医 川 西 美智子



(株) マキタで産業医をしており、川西と申します。

トヨタ自動車(株)にて12年間務めた後、自分の産業医としての経験値を更に高めたく考え、2015年より先輩産業医のいない現会社へと変わって参りました。

ました。

2016年が丁度ストレスチェック開始の年でしたので、立ち上げに中心的に関わったことは大変ありがたい経験となりました。内製・外注のそれぞれを試行錯誤で実施して3年が過ぎ、本年10月に4度目の実施となります。安定的に実施できる体制がだいぶ整って参りまして、少し肩の荷が下りてきているところがあります。

会社が変わりますと、労働衛生の体制や取り組みスタンス、ニーズなど様々なことが変わって参りますので、産業医としてのかかわり方もそれに合わせて調整

していく必要があることに気づかされる今日この頃です。

生産現場で働く人々やそれを支える間接部門の方々が、健やかにモチベーション高く働いていけるようにするために、今の自分に何が出来るかを日々考えながら仕事に取り組んでおります。

東海地方会というつながりが現在の私には大変ありがたい存在となっており、どう対応すべきか悩むケースがでてきた際には、東海地方会に所属されておられる諸先輩方に相談させていただきながら解決の道を模索しております。このようなつながりがなければ、乗り越えられなかったであろう案件もいろいろありました。この場をお借りして東海地方会の先生方に厚く御礼申し上げます。

引き続きご経験豊富な諸先輩方からのご支援・ご指導よろしくお願い申し上げます。今後は自分自身も自己研鑽を重ね、指導的役目の担える産業医へと成長していきたいと考えております。

目指すこと ～産業保健看護専門家制度登録者となったその先は～

日本トランスシティ (株) 人事部付 健康相談室 保健師 豊田 芳美



皆様、はじめまして。日本トランスシティ株式会社 保健師の豊田と申します。

私が勤務します日本トランスシティ株式会社は、倉庫業、港湾運送、陸上運送、国際複合輸送を中心とした事業を展開する総合

物流企業です。本社が所在する四日市港ポートビルにある健康相談室の窓からは、沢山のコンテナを積んだ船が毎日着港し、大きなガントリークレーンでコンテナが下ろされたり、保管されていたコンテナがトラックで出荷されたりする様子を見ることができ、皆様のお手元に様々な品が届くまでの間を、都市から都市へ、人から人へ、つなぐ、物流サービスを提供しています。

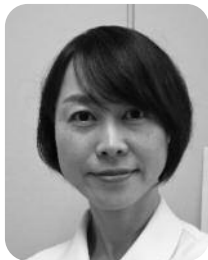
大学を卒業後5年間総合病院で看護師として病棟勤務した後、学生時代から志望していた産業保健師に

転職をし、早8年が経ちました。はじめは、有り余る違いにとても戸惑いましたが、会社が必要としているものは何なのか、会社に必要なものは何なのかを日々熟考し、自分の役割を反芻して参りました。その中で、より産業保健の専門性を高めるため、今年には産業保健看護専門家制度登録者試験に挑戦、無事合格しましたので、今後は専門家、上級者を目指していきたいと考えています。

右も左も分らず産業保健分野に飛び込んだ私を、これまで社内外の沢山の方が教指導いて下さいました。産業保健は企業の中でも医療の中でもレアですが、社会を支える企業、企業を支える人、企業と人その両方支える産業保健にとても重みを感じています。会社により質の高いサービスを提供できるよう、また、産業保健の発展に貢献できるよう、これからも自分を磨いていきます。

入会のご挨拶

ヤマハ株式会社 保健師 後藤 絢



この度、日本産業衛生学会に入会させていただきましたヤマハ株式会社 保健師 後藤絢と申します。2005年に総合病院に看護師として就職し、2018年4月にヤマハ株式会社に産業保健師として入社いたしました。

全世界でのグループ総従業員数は、28,108人(2018年度) 楽器事業、音響機器事業、電子部品や自動車内装部品などを展開しております。勤務している浜松市の健康管理センターには常勤産業医が3名、常勤看護職が9名在籍しています。

今まで医療現場では、目の前の一人ひとりに尽力することに一生懸命でしたが、産業保健の分野に携わり、時代の流れ、会社の動向、社員の傾向など大きな流れを見ながら考えて動くことの重要性を学びました。簡単に申し上げましたが、この経験は私にとって今までの世界とは全く違う世界を感じた出来事でした。この1

年半、産業医を始め、先輩看護職の方々が、こういった産業保健の基本からデータ分析の方法、社員へのアプローチ方法など様々なことを教えてくださいました。それら一つ一つが新鮮で、就職した当初より、現在の方が産業保健の魅力、楽しさを感じております。

現在、禁煙サポートチームとして社員の意識変化をデータ分析し、2022年4月の国内グループ全面禁煙に先立っての2020年4月の遠州地区敷地内全面禁煙に向けて、社員全体に向けた禁煙支援、社員一人ひとりに向けた個別の禁煙サポートに力を注いでおります。社員一人ひとりのヘルスリテラシーを高める難しさ面白さを日々感じているところです。

まだまだ、知識、経験共に不足しておりますが、今後学会や研修会等に積極的に参加し、国や他社の動向を把握し、自社に生かしていきたいと考えております。皆様にはご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

事務局から

2019年度総会決議から

-
-
-
-

地方会理事会

2019年度第2回理事会

日時：2019年10月19日(土) 10:00~12:00
場所：中部大学名古屋キャンパス6階610号室

【議題】

- I. 前回理事会議事録(案)の確認
- II. 協議事項
 - 1) 総会について、報告内容の確認
 - 2) 地方会連携会議について
 - 3) 今後の活動計画について
 - 4) 会員への情報発信について
 - 5) 第31回日本産業衛生学会全国協議会について
 - 6) 選挙管理制度について

- 7) 次回の理事会日程について
- 8) その他

III. 報告事項

- 1) 第92回日本産業衛生学会会計報告
- 2) 2019年度地方会学会準備報告
- 3) 2020年度地方会学会準備報告
- 4) 第32回産業保健スタッフのための研修会準備報告
- 5) 本部理事会報告
- 6) 地方会事務局報告
- 7) 地方会活動方針検討委員会
- 8) 学術研究推進委員会
- 9) 編集委員会
- 10) 研修会企画委員会
- 11) 表彰制度推薦委員会
- 12) 部会報告
- 13) 職場ストレス研究会活動報告
- 14) 各県の活動報告
- 15) その他報告事項
- 16) 関連学会等開催情報
- 17) その他

会員状況

2019年6月1日～9月30日の推移
(2019年9月30日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	13	7	2	4	26
転入会員	1	0	0	0	1
地方会内転入	1	0	0	0	1
退会会員	-8	-5	-1	-1	-15
転出会員	0	0	-1	0	-1
地方会内転出	0	0	-1	0	-1
増減	7	2	-1	3	11
本部正会員	516(4)	224	111	42(1)	893(5)

※()は学生会員を表す

これからの行事予定

第 32 回産業保健スタッフのための研修会

日時：2020年2月1日(土) 13:00～16:45
会場：名古屋栄ビルディング 中会議室
テーマ：糖尿病の健康管理・健康支援

2019年度東海地方会産業医部会懇話会

日時：2020年4月4日(土)
会場：ウインクあいち
特別講演：□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□

第 93 回日本産業衛生学会

会期：2020年5月13日(水)～16日(土)
会場：旭川市民文化会館・アートホテル旭川
テーマ：産業医衛星の原点に立ち、将来の労働と健康について考える

日本労働衛生研究協議会

会期：2020年7月11日(土)～12日(日)
会場：浜松アクトタワー

編集後記

新年あけましておめでとうございます。いよいよ、56年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催される2020年がスタートしました。弊社内でも、日本でのパラリンピック開催を機に、障がいを体験し当事者から話を聞く機会や、パラスポーツの体験会などが開かれています。実際に体験してみたり、具体的に話を聞くことで初めて知ることができることが多くありました。この機会に、企業内・地域・日本全体が、物理的にも心理的にもバリアフリーが加速的に進んでいくことを期待しています。

池田友紀子

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子(キヤノン)
副編集委員長：西谷直子(名古屋大学)
編集委員：赤津順一(日本予防医学協会)
榎原毅(名古屋市立大学)
河南文子(富士電機)
後藤由紀(四日市看護医療大学)
近藤祥(聖隷健康診断センター)
榊原洋子(愛知教育大学)
菅沼要一郎(浜松ホトニクス)
城憲秀(中部大学)
山本誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-4964-8804 E-mail: jsok-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口601-1
有限会社トータルマップ
TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718